

農林水産省「田舎で働き隊！」事業

（農村活性化人材育成派遣モデル事業）

「農村地域における都市部人材の受け入れに関する意識調査」

アンケート報告書

（北海道内の農業協同組合・漁業協同組合・森林組合対象）

・調査方法等

調査時期： 2009 年 3 月
調査目的： 農村地域における都市部人材の受け入れに関する意識調査
調査対象： 北海道内の農協・漁協・森林組合 309 団体
調査方法： 各団体にアンケート調査表を郵送
調査結果の活用： 1) 農林水産省へ事業報告書として提出
2) 有益な支援情報として当 N P O 法人のホームページ上で公開
上記 1、2 とともに調査結果の集計のみを提出、または公開
(団体名、部課名の表記はなし)

・アンケート依頼書・アンケート調査票原紙

以下、全団体（農業協同組合、漁業協同組合、森林組合）に郵送にて送付した。

- ・アンケート依頼書 1 枚
- ・アンケート調査票 2 枚（送付時は用紙 1 枚に両面印刷）

内容見本を添付する。

「農村地域における都市部人材の受け入れに関する現状調査」アンケート送付先一覧

農協(113団体)

支庁	団体名
渡島支庁	JA新はこだて
	JA函館市亀田
桧山支庁	JAきたひやま
	JA今金町
後志支庁	JAようてい
	JA新おたる
	JAきょうわ
胆振支庁	JAおいち
	JAとうや湖
胆振支庁	JA伊達市
	JAとまこまい広域
	JAむかわ
	JA平取町
日高支庁	JA富川
	JA門別町
	JAにいかつづ
	JAしずない
	JAみついし
	JAひだか東
	JAさっぽろ
石狩支庁	JAいしかり
	JA北いしかり
	JA道央
	JA新しのつ
	JAいわみざわ
空知支庁	JAびばい
	JAみねのぶ
	JA月形町
	JAなんぼろ
	JAながめま
	JAそらち南
	JA夕張
	JAたきかわ
	JA新すながわ
	JAピンネ
	JAきたそらち
	JA北いぶき
	JAてしお
留萌支庁	JA幌延町
	JA南るもい
	JA苫前町
	JAオロロン
上川支庁	JA上川中央
	JA道北なよろ
	JA北はるか
	JA北ひびき
	JAあさひかわ
	JAたいせつ
	JA東旭川
	JA東神楽
	JA当麻
	JAびつぷ町
	JAひがしかわ
	JAびえい
	JAふらの

支庁	団体名
宗谷支庁	JA稚内
	JA北宗谷
	JA東宗谷
	JA中頓別町
	JA北見枝幸
網走支庁	JAオホーツクはまなす
	JAおうむ
	JAおこっぺ
	JAサロマ
	JAゆうべつ町
	JAえんゆう
	JAきたみらい
	JAつべつ
	JAびほろ
	JAめまんべつ
	JAとこる
	JAオホーツク網走
	JAこしみず
	JA斜里町
	JA清里町
十勝支庁	JA帯広かわにし
	JA帯広大正
	JA中札内村
	JAさらべつ
	JA忠類
	JA大樹町
	JA広尾町
	JAめむろ
	JA十勝清水町
	JA新得町
	JA鹿追町
	JA木野町
	JAおとふけ
	JA土幌町
	JA上土幌町
	JAさつない
	JA幕別町
	JA十勝池田町
	JA十勝高島
	JA豊頃町
釧路支庁	JAうらほろ
	JA本別町
	JAあしよる
	JA陸別町
	JA釧路太田
	JA浜中町
根室支庁	JAしべちゃ
	JA摩周湖
	JA阿寒
	JAくしろ丹頂
	JAしべつ
	JA中標津町
	JA計根別
	JA西春別
	JA上春別
	JA中春別
	JAべつかい
	JA根室

漁協(76団体)

支庁	団体名
石狩支庁	石狩湾
後志支庁	小樽市
	小樽機船
	余市郡
	東しゃこたん
	神恵内村
	盃
	泊村
	岩内郡
	寿都町
	島牧
桧山支庁	ひやま
渡島支庁	松前さくら
	福島吉岡
	上磯郡
	函館市
	銭亀沢
	戸井
	えさん
	南かやべ
	鹿部
	砂原
	森
	落部
	八雲町
	長万部
胆振支庁	いぶり噴火湾
	室蘭
	いぶり中央
	苫小牧
	鶴川
日高支庁	ひだか
	日高中央
	えりも
十勝支庁	広尾
	大樹
	大津
釧路支庁	白糖
	釧路市
	釧路市東部
	昆布森
	厚岸
	散布
	浜中
	釧路機船

支庁	団体名
根室支庁	落石
	齒舞
	根室
	根室湾中部
	別海
	野付
	標津
網走支庁	羅臼
	ウトロ
	斜里第一
	網走
	西網走
	常呂
	佐呂間
	湧別
	紋別
宗谷支庁	沙留
	雄武
	枝幸
	頓別
	猿払村
	宗谷
	稚内
	利尻
	香深
留萌支庁	船泊
	稚内機船
	遠別
	北るもい
	新星マリン
	増毛

森林組合(85団体)

支庁	団体名
渡島支庁	松前町森林組合
	福島町森林組合
	知内町森林組合
	木古内町森林組合
	はこだて広域森林組合
	七飯町森林組合
	鹿部町森林組合
	森町森林組合
	山越郡森林組合
桧山支庁	桧山南部森林組合
	厚沢部町森林組合
	乙部町森林組合
	北部檜山森林組合
	今金町森林組合
後志支庁	南しりべし森林組合
	ようてい森林組合
胆振支庁	胆振西部森林組合
	苫小牧広域森林組合
日高支庁	沙流川森林組合
	日高中部森林組合
	日高東部森林組合
	ひだか南森林組合
石狩支庁	千歳市森林組合
	札幌市森林組合
	石狩北部森林組合
	石狩市森林組合
空知支庁	栗山町森林組合
	そらち森林組合
	芦別市森林組合
	北空知森林組合
上川支庁	旭川市森林組合
	鷹栖町森林組合
	比布町森林組合
	東神楽町森林組合
	美瑛町森林組合
	東川町森林組合
	当麻町森林組合
	愛別町森林組合
	上川町森林組合
	富良野地区森林組合
	南富良野町森林組合
	和寒町森林組合
	士別地区森林組合
	上川北部森林組合
	下川町森林組合
留萌支庁	留萌南部森林組合
	留萌中部森林組合
	遠別初山別森林組合
	留萌北部森林組合
宗谷支庁	中頓別浜頓別町森林組合
	南宗谷森林組合
	豊富猿払森林組合
	稚内市森林組合

支庁	団体名
網走支庁	清里町森林組合
	網走地区森林組合
	美幌町森林組合
	北見広域森林組合
	新生紀森林組合
	佐呂間町森林組合
	遠軽地区森林組合
	オホーツク中央森林組合
	滝上町森林組合
	雄武町森林組合
根室支庁	別海町森林組合
	中標津町森林組合
	標津町森林組合
釧路支庁	くしろ西森林組合
	釧路東森林組合
	阿寒町森林組合
	鶴居村森林組合
	標茶町森林組合
	弟子屈町森林組合
十勝支庁	厚岸町森林組合
	十勝大雪森林組合
	西十勝森林組合
	清水町森林組合
	十勝広域森林組合
	更別森林組合
	大樹町森林組合
	広尾町森林組合
	幕別町森林組合
	本別町森林組合
	足寄町森林組合
	陸別町森林組合
	浦幌町森林組合

平成 21 年 3 月吉日

ご担当部署 御中

「農村地域における都市部人材の受け入れに関する意識調査」へのご協力をお願い

特定非営利活動法人 北海道ふるさと回帰支援センター

理事長 小檜山 博

拝啓 早春の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、年度末のご多忙のところ大変恐縮でございますが、当北海道ふるさと回帰支援センターは、農林水産省から「田舎で働き隊」事業（農村活性化人材育成派遣モデル事業）を受け、事業を実施しております。事業の一環として上記調査を実施させていただきます。

なお、調査の概要は下記のとおりです。

つきましては、お手数をおかけ致しますが、同封の「調査票」をご確認の上、所定の欄にご記入頂き、「調査票」を同封の返信用封筒又は F A X（F A X 番号は下記に記載）にてご返信頂きますようお願い申し上げます。

尚、誠に勝手ながらご回答期限は、3 月 26 日（木）とさせていただきます。またご回答をお寄せ頂いた団体には、「調査報告書」を 1 冊贈呈申し上げます。

お忙しいところ、大変恐縮ですが、趣旨ご査察の上、本調査にご協力頂きますよう、重ねてお願い申し上げます。

敬具

記

1. 調査目的： 農村地域における都市部人材の受け入れに関する意識調査
2. 調査対象： 北海道内の農協・漁協・森林組合 309 団体
3. 調査方法： アンケート調査
4. 調査結果の活用：
 - 1) 農林水産省へ事業報告書として提出
 - 2) 有益な支援情報として当 N P O 法人のホームページ上で公開上記 1、2 とともに調査結果の集計のみを提出、または公開
（ご記入いただいた団体名、部課名は一切表記されません）

【本調査に関するお問い合わせ】 _____

■ 設問内容や回答方法について

特定非営利活動法人 北海道ふるさと回帰支援センター

〒060 - 0062 北海道札幌市中央区南 2 条西 10 丁目クワガタビル 2 F

N P O 法人 北海道 N P O サポートセンター内

T E L : 011 - 204 - 6523 F A X : 011 - 261 - 6524

E mail : research@dosanko.org

担当：後藤 祐輔

携帯電話：090 - 5958 - 2256

“ 農村地域における都市部人材の受け入れに関する意識調査 ” 調査票

(ご記入願います)(団体名 : _____ 担当部署 : _____)

農林水産省への報告書には実名により、貴団体及び他の関係者への報告書には匿名と致します。

以下の各設問への回答には、☐ をチェック、又は ☐ で選択して頂くようお願い致します。

設問 1 - : 貴団体では農林水産省の「田舎で働き隊」事業（農村活性化人材育成派遣モデル事業）についてご存知でしたか？

☐ はい ☐ いいえ どちらかを選択

- : 「はい」と選択した団体：何でお知りになりましたか？（ 複数選択可）

- ☐ 1 : 新聞 ☐ 2 : テレビ ☐ 3 : ラジオ ☐ 4 : インターネット
☐ 5 : その他 (_____)

当事業は、都市部等の人材が 1 週間から 10 日ほど農村で共同生活し、農業や酪農、林業、水産業を体験することで農村と都市部等の人材を繋げる仕組みですが、貴団体（及び地域の農家等を含む）が受入れ先であると想定し、以下の設問にお答え願います。

設問 2 : 田舎への都市部等人材の受入れに、どんな影響・効果を期待しますか？（ 1 つのみ選択）

- ☐ 1 : 後継者 ☐ 2 : 短期労働者 ☐ 3 : 移住者 ☐ 4 : 花嫁
☐ 5 : 農村地域の人材育成 ☐ 6 : その他 (_____)

設問 3 : 田舎への都市部等からの受入れ人材の年齢・世代について何歳位を期待しますか？（ 1 つのみ選択）

- ☐ 1 : 20 代以下 ☐ 2 : 30 代 ☐ 3 : 40 代 ☐ 4 : 50 代以上 ☐ 5 : 年齢に関係ない

設問 4 : 田舎への都市部等からの受入れ人材の性別について男女別の希望をお伺いします。（ 1 つのみ選択）

- ☐ 1 : 男性 ☐ 2 : 女性 ☐ 3 : 男女どちらでもよい

設問 5 : 田舎への都市部等からの受入れ人材の家族状況についてお伺いします。（ 1 つのみ選択）

- ☐ 1 : 独身者 ☐ 2 : 家族持ち ☐ 3 : どちらでもよい

設問 6 : 田舎への都市部等からの受入れ人材には、どのような背景・経験を期待しますか？（ 1 つのみ選択）

- ☐ 1 : 実家が農林水産業（又は農林水産業経験者） ☐ 2 : 農業・水産高校等卒業生
☐ 3 : やる気があれば経験は問わない ☐ 4 : その他 (_____)

設問 7 : 田舎への都市部等人材を受入れる際には、どのような課題があるとお考えでしょうか？

- ☐ 1 : 課題はなく、いつでも受入れられる
☐ 2 : 課題の内容 (_____)

設問 8：貴団体では、当事業のような田舎への都市部等人材を受入れる制度（就農支援・農業漁業体験等制度等）
はありますか？

- ☐ 1：ある（制度の内容： ）
☐ 2：ない

設問 9：設問 8 で「ある」と回答された団体：その制度への課題、改善点等についてご記入お願い致します。

--

設問 10：設問 8 で、「ある」と回答された団体：自治体等と連携して事業を進めていますか？

- ☐ 1：都道府県と連携 ☐ 2：市町村と連携 ☐ 3：連携していない

設問 11：設問 8 で、「ない」と回答された団体：今後どのような受入れ制度をお考えですか？

- ☐ 1：考えていない
☐ 2：考えている（内容： ）

設問 12：今後、農林水産省で、今回と同様の事業が実施された場合、貴団体で、田舎への都市部等人材を受入れる
意思・予定はありますか？

- ☐ 1：ある ☐ 2：ない

設問 13：設問 12 で「ある」と回答された団体：受入れ人数はどれくらいですか？

- ☐ 1：5 人以内 ☐ 2：10 人以内 ☐ 3：20 人未満 ☐ 4：20 人以上いくらでも

設問 14：設問 12 で「ある」と回答された団体：期待する効果はどのようなものですか？

- ☐ 1：後継者 ☐ 2：短期労働者 ☐ 3：移住者 ☐ 4：花嫁
☐ 5：農村地域の人材育成 ☐ 6：その他（ ）

設問 15：設問 12 で「ない」と回答された団体：事情がどう変われば「ある」になりますか？

--

ご回答いただき、ありがとうございました。

特定非営利活動法人 北海道ふるさと回帰支援センター

〒060 - 0062 北海道札幌市中央区南 2 条西 10 丁目クワガタビル 2 F

T E L：011 - 204 - 6523 F A X：011 - 261 - 6524

E mail：research@dosanko.org

・ アンケート回収率、有効回答数

北海道内の農協・漁協・森林組合 計 309 団体の内 157 団体から回答を得た。

農協について、合併等の関係で発送数と実数に 3 ヶ所の開きがあり、回収率の算出の際に実数を母数として算出することとする。

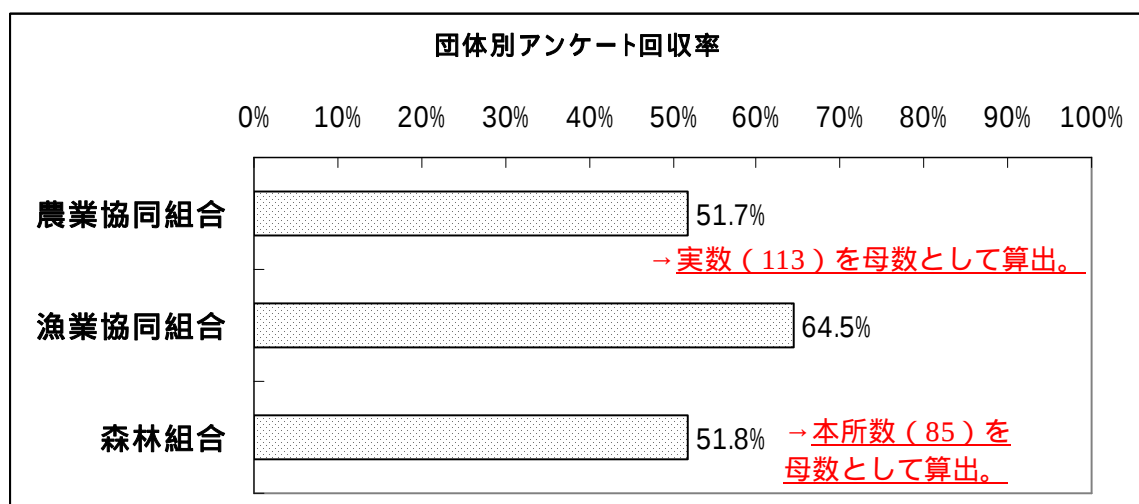
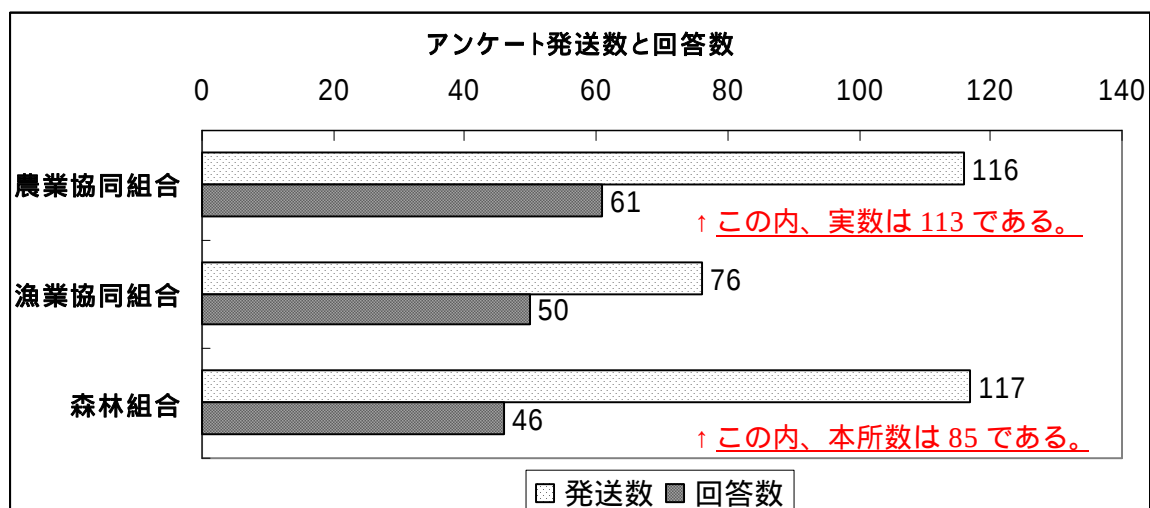
森林組合の各事業支所（計 32 ヶ所）への発送分に関しては、本所扱いとし、回収率を算出する際の母数には含めないこととする。

有効回答数（全体）：n=157

農業協同組合 : n=61

漁業協同組合 : n=50

森林組合 : n=46

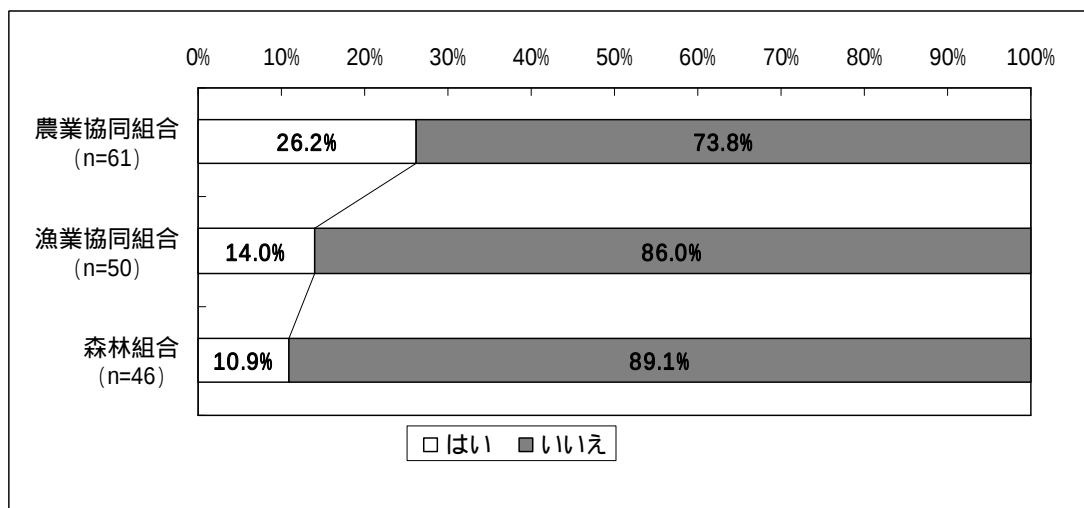


．アンケート各設問に対する回答の集計結果

■ 「田舎で働き隊」事業に関して

1 - 1 . 本事業の認知度

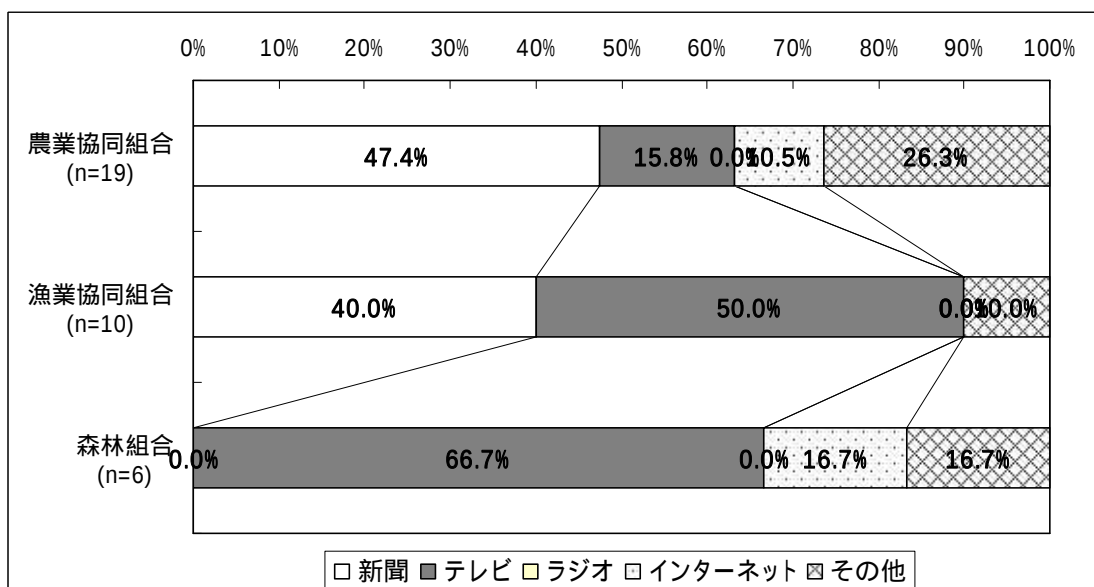
Q：貴団体では農林水産省の「田舎で働き隊」事業（農村活性化人材育成派遣モデル事業）についてご存知でしたか？



> 農協・漁協・森林組合共に 7 割以上が事業自体を知らないという回答結果を得た。

1 - 2 . 認知した媒体

Q：「はい」と選択した団体：何でお知りになりましたか？ （ 複数選択可）

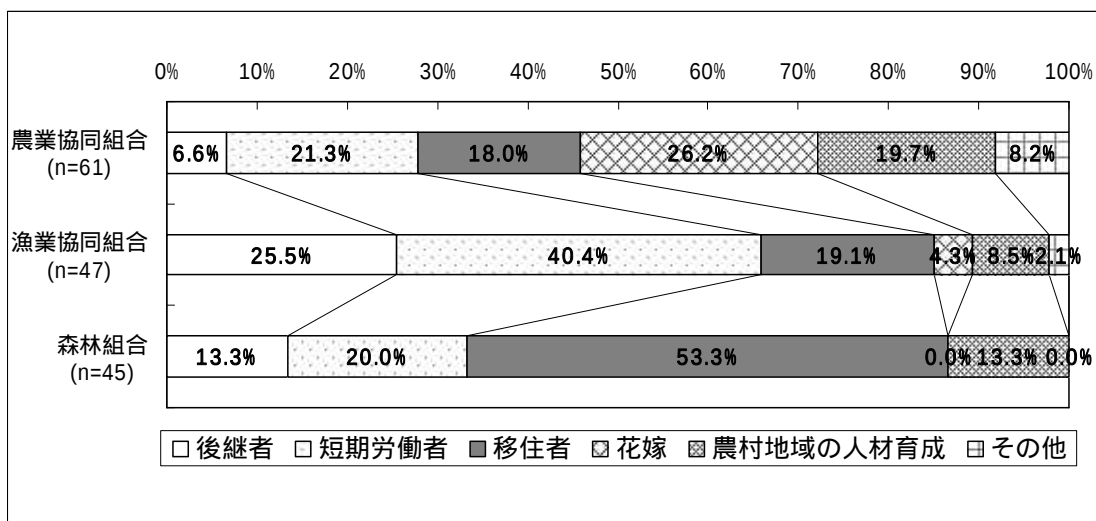


> 農協では新聞が最も多かったが、他団体ではテレビの割合が全体の 5 割を超えていた。

■ 各団体が期待する都市部等の受入人材像に関して

2．影響・効果

Q：田舎への都市部等人材の受入れに、どんな影響・効果を期待しますか？（1つのみ選択）

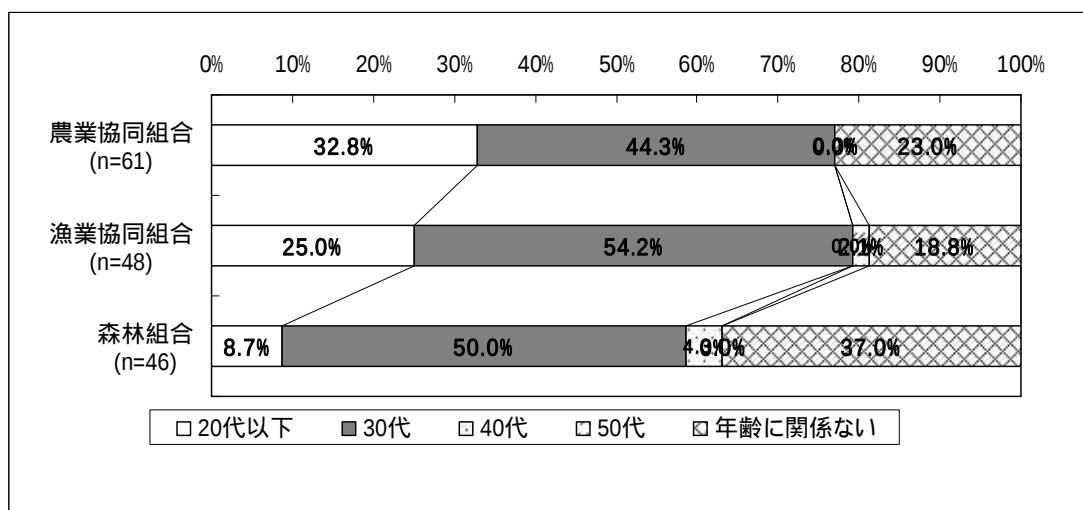


＞農協での上位3回答は短期労働者・花嫁・農村地域の人材育成であり、漁協での上位3回答は後継者・短期労働者・移住者、そして森林組合では、後継者／農村地域の人材育成・短期労働者・移住者であった。共通の選択支は短期労働者のみと、団体毎でのばらつきが目立った。

無回答団体数：漁協（3団体）、森林組合（1団体）

3．年齢・世代

Q：田舎への都市部等からの受入れ人材の年齢・世代について何歳位を期待しますか？（1つのみ選択）

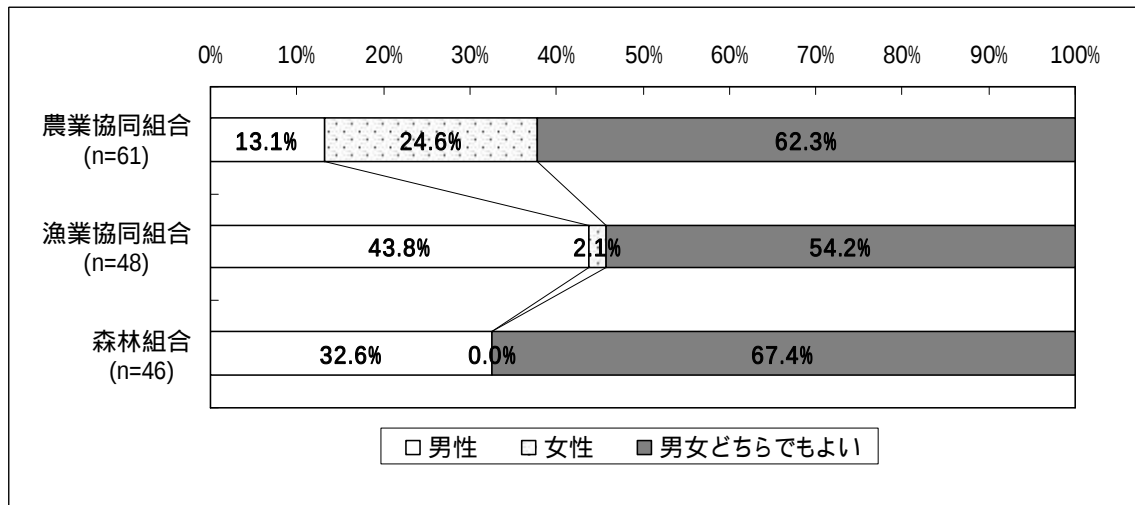


＞農協・漁協・森林組合共に、最も期待している年齢は30代という回答結果を得た。

無回答団体数：漁協（2団体）

4．性別

Q：田舎への都市部等からの受入れ人材の性別について男女別の希望をお伺いします。（１つのみ選択）

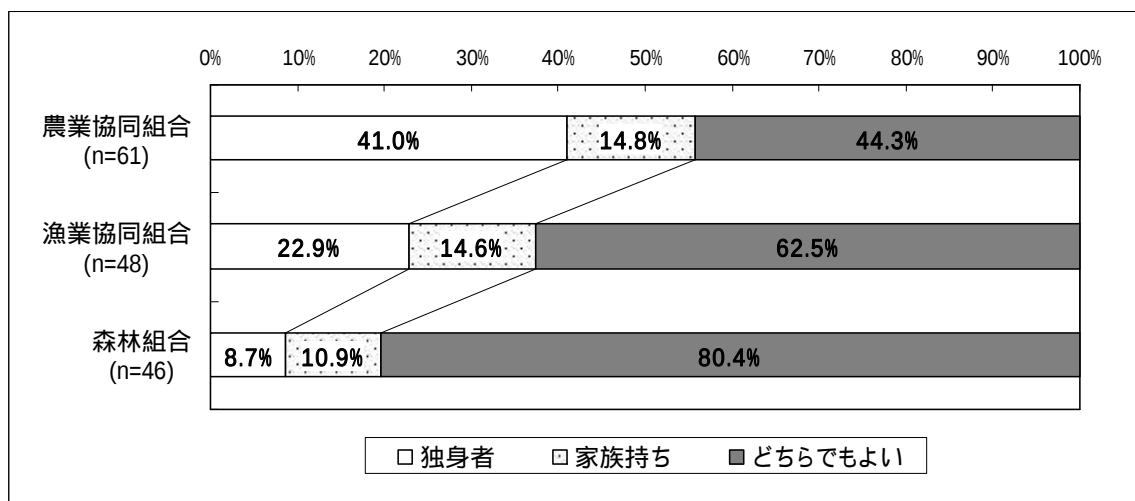


＞農協・漁協・森林組合において５割以上の割合で「男女どちらでもよい」という回答結果を得た。

無回答団体数：漁協（２団体）

5．家族状況

Q：田舎への都市部等からの受入れ人材の家族状況についてお伺いします。（１つのみ選択）

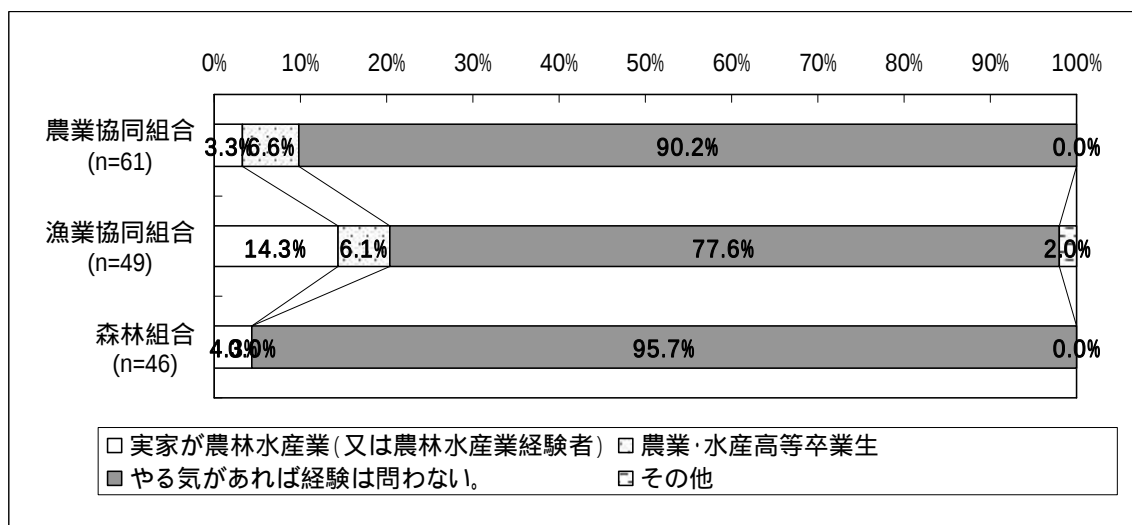


＞農協・漁協・森林組合全てにおいて、「どちらでもよい」が最も回答数が多かった。農協で独身者が４１％と他組合を大きく上回った理由として、設問２の受入れ人材に期待する影響・効果（本書 P9）として「花嫁」が最も多い回答数であったことに起因すると推測できる。

無回答団体数：漁協（２団体）

6．背景・経験

Q：田舎への都市部等からの受入れ人材には、どのような背景・経験を期待しますか？（1つのみ選択）



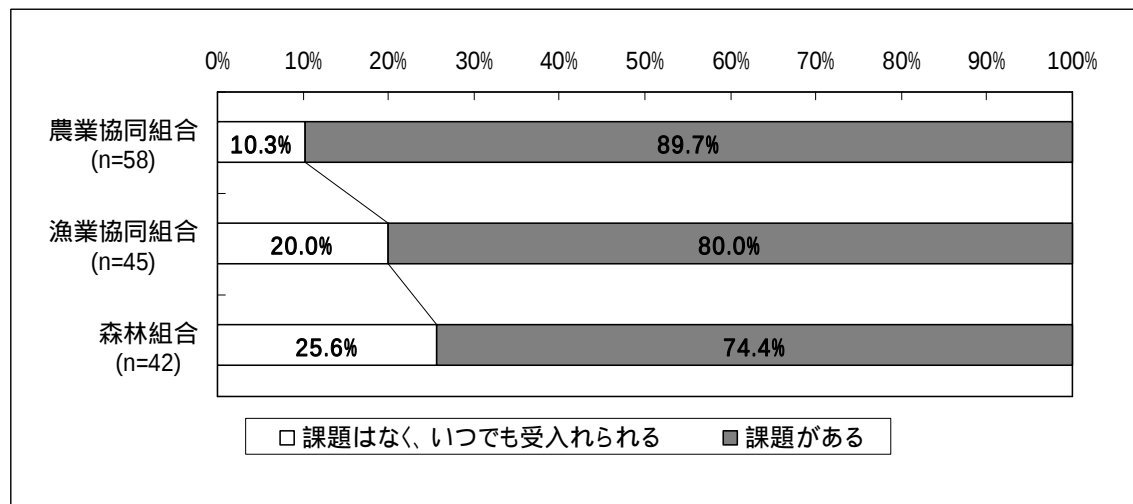
> 農協・漁協・森林組合全てにおいて、約 8 割以上が「やる気があれば経験は問わない。」という回答結果を得た。

無回答団体数：漁協（1 団体）

■都市部等人材の受入に関する団体・地域の現状と課題に関して

7. 人材受入の課題

Q：田舎への都市部等人材を受入れる際には、どのような課題があるとお考えでしょうか？



> 農協・漁協・森林組合の7割以上の団体が田舎への都市部等人材を受入れる際に「課題がある」という認識を持っていた。

無回答団体数：農協（3団体） 漁協（5団体） 森林組合（4団体）

【課題があると回答した団体の課題内容の集計結果】

課題があり、その内容まで回答した団体の回答内容を、以下の6分類に分けて集計を実施。

受入先の整備（住居等の設備関係、農家の理解、その他受入人材への世話等）

受入団体側の整備（対応部署設置等の受入体制・基盤作り、受入先の選定、各種保障制度等）

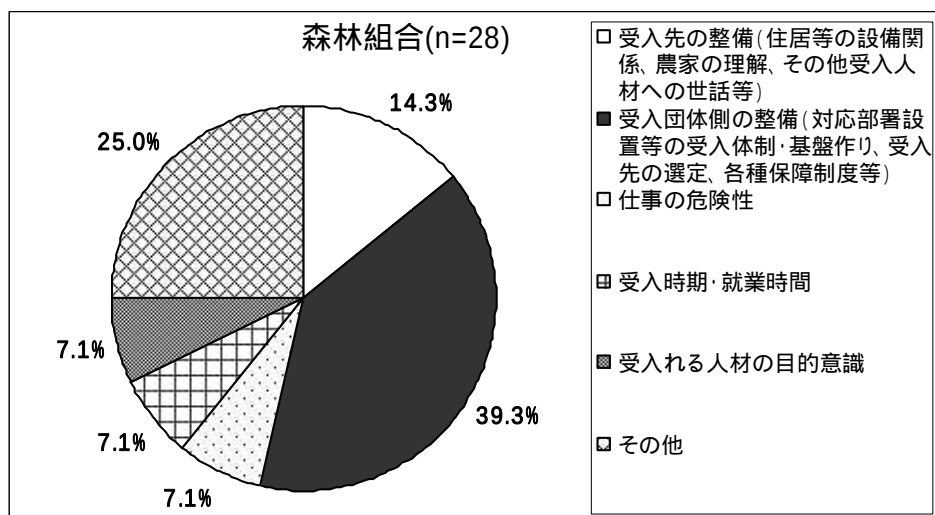
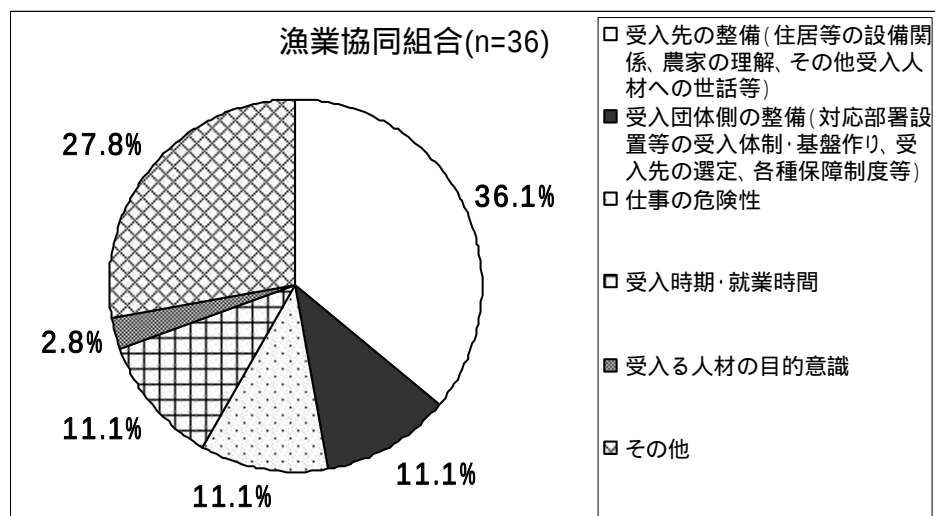
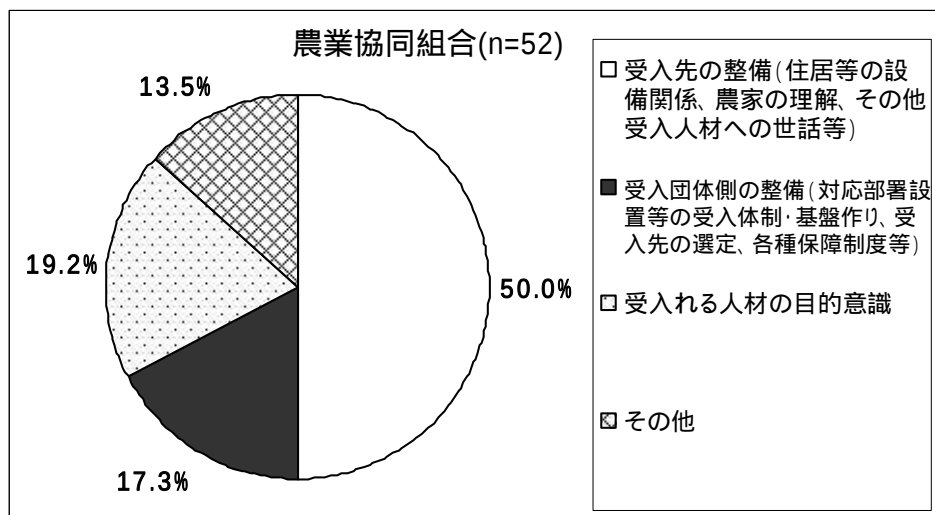
仕事の危険性 漁業協同組合・森林組合のみ

時期・時間 漁業協同組合・森林組合のみ

人材の目的意識

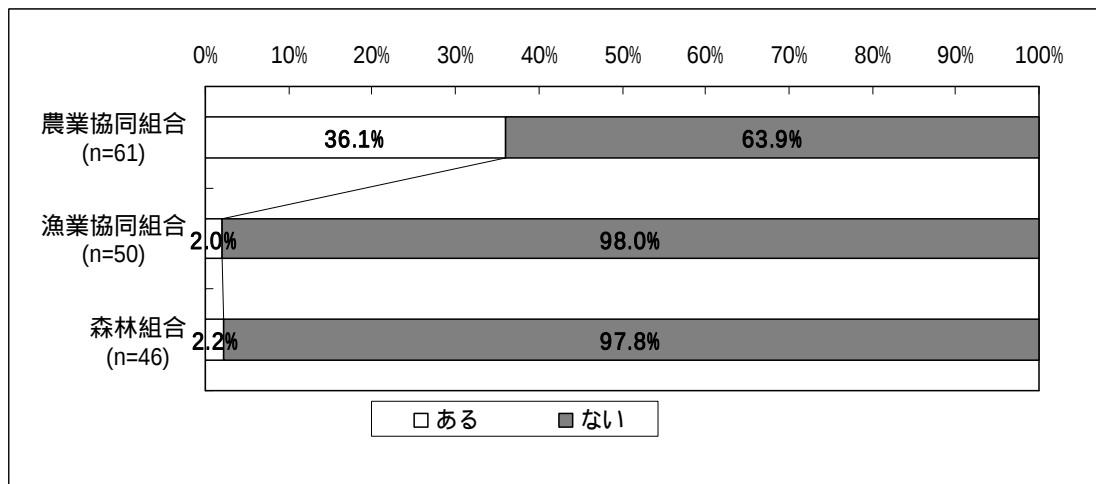
その他

> 回答集計グラフは次ページに記載。



8．既存の受入制度

Q：貴団体では、当事業のような田舎への都市部等人材を受入れる制度（就農支援・農業漁業体験等制度等）はありますか？



＞農協では「ある」と回答した団体は 36.1%であったが、漁協・森林組合では共に「ある」と回答した団体は 2%台で、約 98%の団体から「ない」という回答結果を得た。

9：8 の制度への課題・改善点等に関して

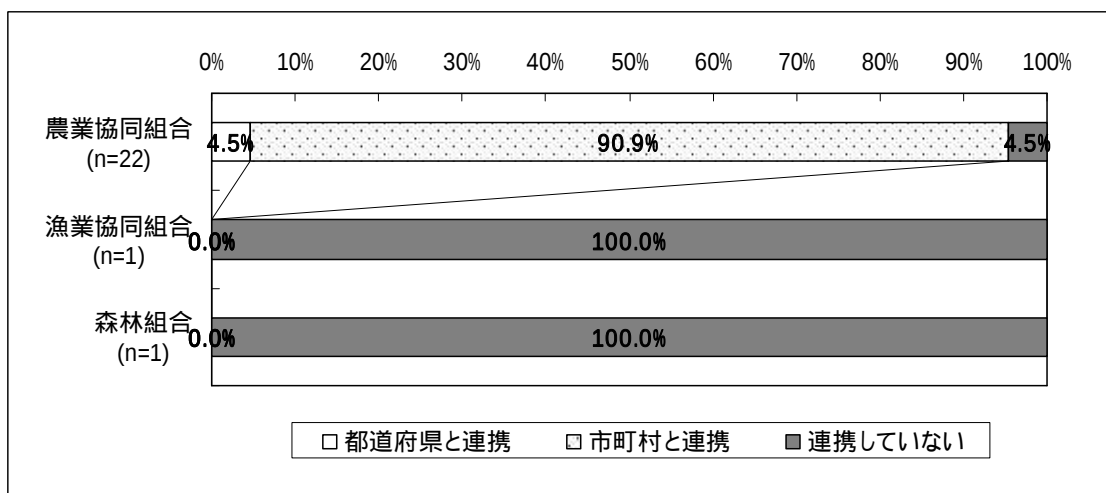
Q：設問 8 で「ある」と回答された団体：その制度への課題、改善点等についてご記入お願い致します。

＞「ある」と回答した団体の内、その内容まで記載した団体は全体で、12 団体で全て農協であった。以下がその回答一覧である。

- ・受入農家の拡大、就農独立に向けた技術・経営・資金支援、独身青年を迎えた花嫁対策。
- ・資金や信用問題。
- ・宣伝の手法が難しい（現在はホームページのみ）。
- ・農業等への憧れから問い合わせはあるが、実際に体験し就農へ発展するケースがほとんど無い。（農業環境の厳しい現状が問い合わせ者のイメージと違うのでは。）
- ・もう少し規模に合わせた融資が必要。
- ・女性の応募がない。
- ・予算不足、受入農家の諸問題等。
- ・受入農家、受入住宅の不足問題。
- ・実習生が減少している。実習生の受入協議会の活動が少なくなっている。
- ・短期間の受入では、受入農家が困る。（仕事が分かった時に帰るなど。）
- ・受入側農家の調整に苦労する。
- ・実習・研修などのレベルでは受入先のニーズに応えることが不可能。

10.8の制度実施にあたり、自治体等との連携状況

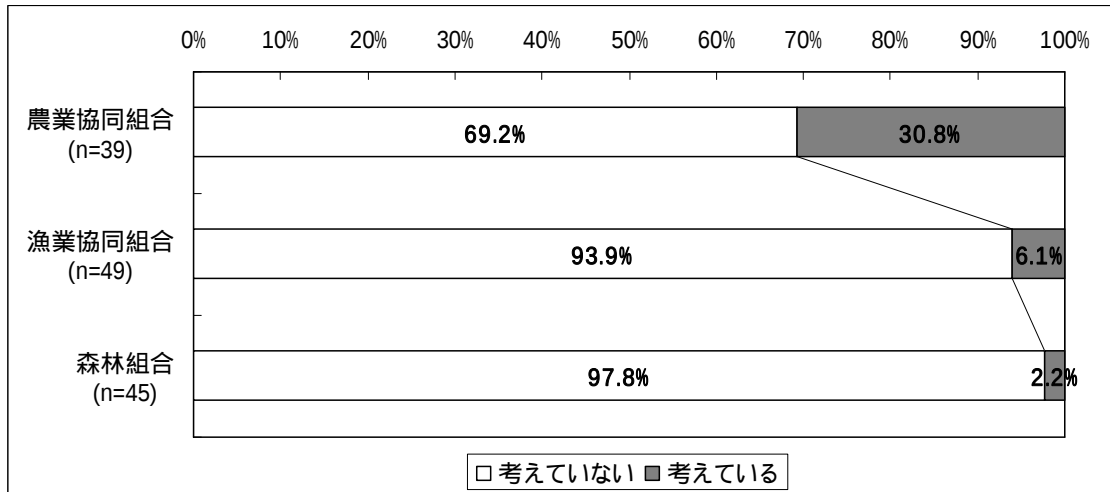
Q：設問8で、「ある」と回答された団体：自治体等と連携して事業を進めていますか？



> 農協では、設問8で、制度が「ある」と回答した団体の内、9割は市町村と連携して人材の受入事業を進めているという回答結果を得た。

11.8で「ない」と回答した団体の今後の人材受入制度への考え

Q：設問8で、「ない」と回答された団体：今後どのような受入れ制度をお考えですか？



> 「考えている」と回答した団体の内、今後考えている受入制度の内容について記載のあった団体の回答一覧を以下に記載する。農協から10団体、漁協から3団体、森林組合から1団体の回答を得た。

< 農協 >

- ・高齢化による担い手不足対策。
- ・行政、農業者との連携した受入制度。
- ・短期間の労力対策。
- ・必要であると考えているが、未設置である。
- ・研修的な名目で、短期労働者や花嫁対策として可能な制度。
- ・新規就農支援（JA単独ではなく行政の方で）
- ・ホリタ以外での労働力を検討中。
- ・新規就農支援。
- ・自治体・他JAとの協力の中で、研修制度がある。
- ・関係機関が連携したバックアップ体制。

< 漁協 >

- ・労働力としての漁業従事者の確保。
- ・繁忙期の人手確保対策。
- ・短期労働者の受入制度。

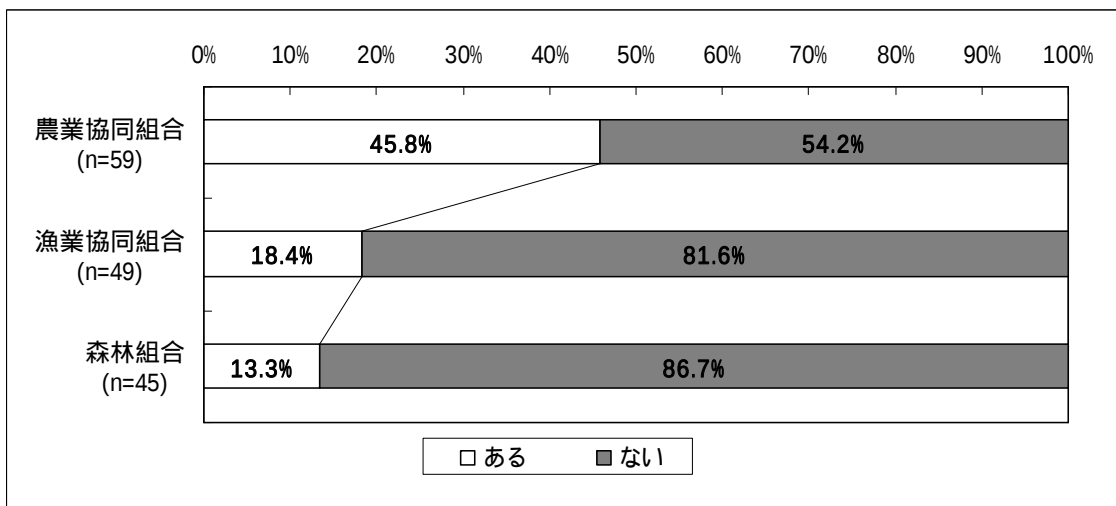
< 森林組合 >

- ・人材を受け入れる企業への助成制度。

■ 農村地域における今後の都市部等人材の受入に対する意向・動向に関して

1 2 : 「田舎で働き隊」と同様の事業に対する意向

Q : 今後、農林水産省で、今回と同様の事業が実施された場合、貴団体で、田舎への都市部等人材を受入れる意思・予定はありますか？

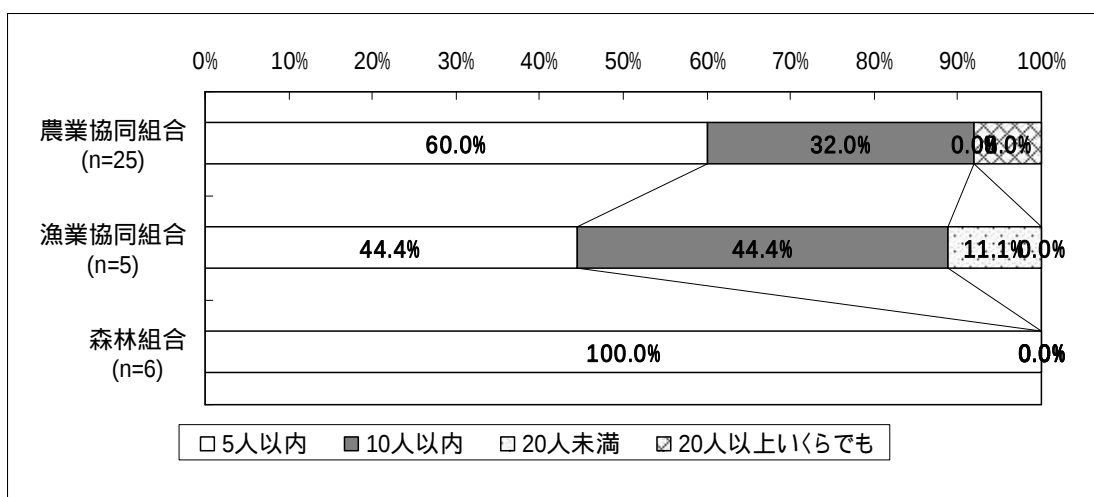


> 農協では回答結果が約 2 分されたが、漁協・森林組合では、約 8 割から「ない」という回答結果を得た。

無回答団体数：農協（2 団体） 漁協（1 団体） 森林組合（1 団体）

1 3 . 希望する受入人材の詳細

Q : 設問 12 で「ある」と回答された団体：受入れ人数はどれくらいですか？

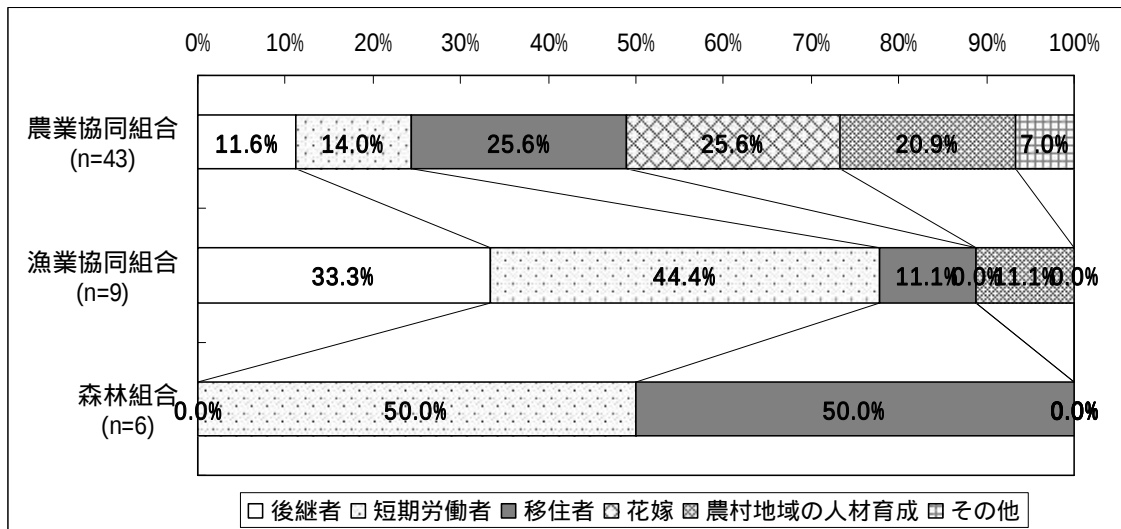


> 3 団体すべてから、「5 人以内」が最も多い回答を得た。漁協では「5 人以内」と「10 人以内」が同回答数であった。

無回答団体数：農協（2 団体） 漁協（1 団体）

14．受入人材へ期待する効果

Q：設問 12 で「ある」と回答された団体：期待する効果はどのようなものですか？



> 農協では「移住者」、「花嫁」、「農村地域の人材育成」がほぼ同数で上位の回答であったが、漁協では「短期労働者」が最多回答数で、森林組合では「短期労働者」、「移住者」が同数で最多回答数であった。

無回答団体数：漁協（1 団体）

15．「田舎で働き隊」と同様の事業に消極的である理由

Q：設問 12 で「ない」と回答された団体：事情がどう変われば「ある」になりますか？

> 「ない」と回答した団体の内、「ある」に変わる事情を記載した団体の回答内容を、以下の 5 分類に分けて集計を実施。

事業の向上（経営の安定、事業量の拡大、雇用規模の拡大等）

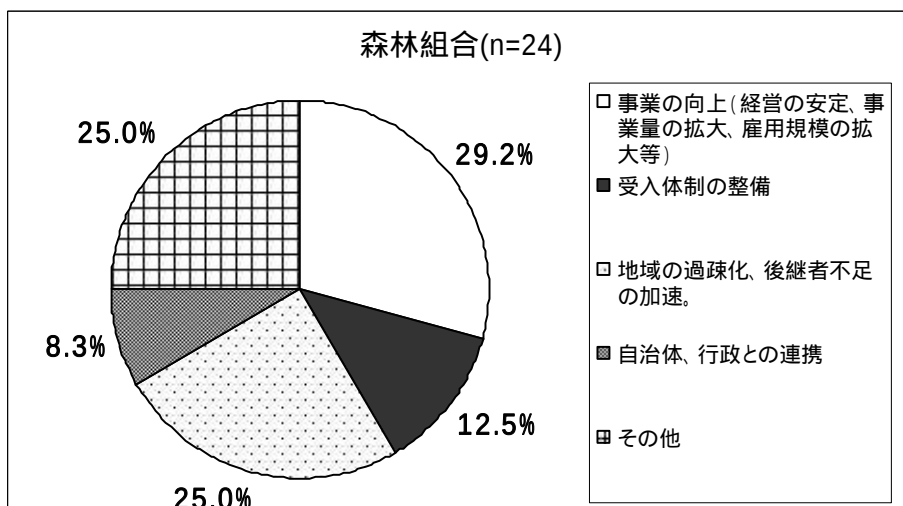
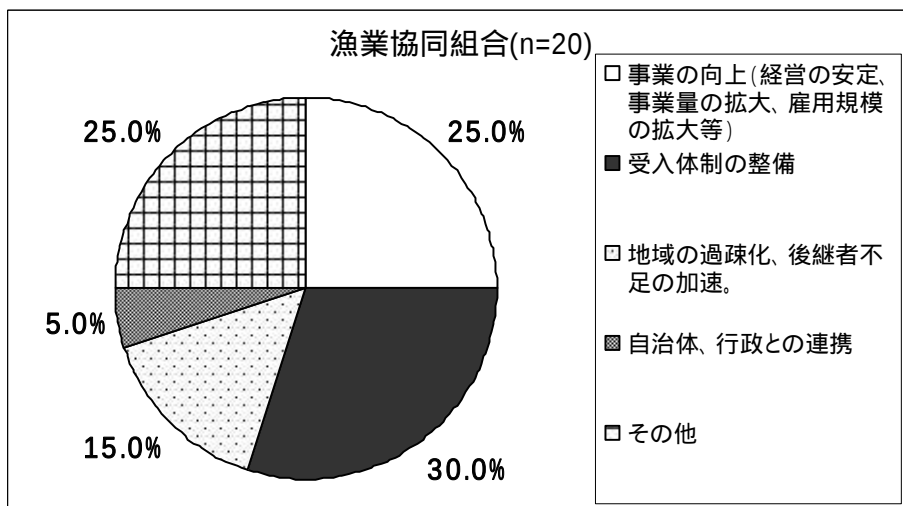
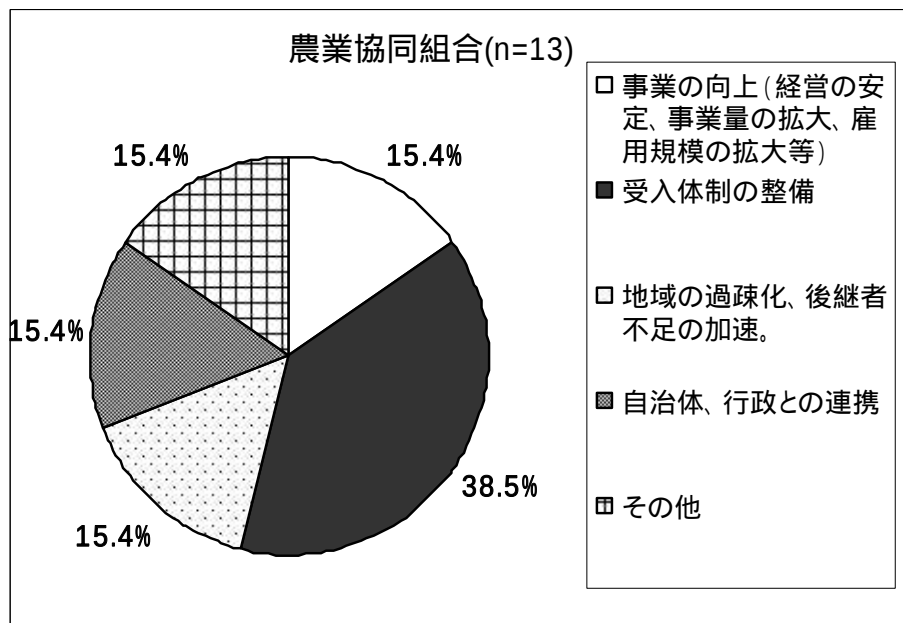
受入体制の整備

地域の過疎化、後継者不足の加速

自治体、行政との連携

その他

> 回答集計グラフは次ページに記載。



- 禁無断掲載 -

農林水産省「田舎で働き隊」事業
(農村活性化人材育成派遣モデル事業)

アンケート調査報告書
～ 2009 年 3 月 ～

特定非営利活動法人
北海道ふるさと回帰支援センター

〒060-0002 札幌市中央区南 2 条西 10 丁目 クワガタビル 2 階
TEL: 011-204-6523 FAX: 011-261-6524
E-mail: inaka@dosanko.org URL: <http://inaka.dosanko.org>